

意見広告

本間獣医科医院

1984年6月以来30年間、「ペットも家族もみんな健康長生き」をモットーにペット医療一筋でやってまいりました。その間、ペットの医療も高度化し、そして専門化が進むに従い、その医療費も高額化してきております。我々のこの動物病院という業種は、自由な診療価格を自らが設定し、その獣医療サービスをペット並びにペットオーナー様へ提供するという、サービス業にあたります。従って、このサービスを受ける側の消費者となるペットオーナー様は、提供されるサービス価格を公平に知る権利があるのも事実です。

これらのことを踏まえ、私は、せめてペットの健康長生きを最も速やかに推し進める為には、ペットと人の共存に必要な予防医療費に関して、法定伝染病である狂犬病の予防接種をはじめ、混合ワクチンや細かな健康診断の内容等を含めた医療価格を明確に広告することといたしました。

おそらく大多数のペットオーナー様は、ペットの予防医療費の広告など今さら目新しい話題ではない、と感じると思いますが、この予防医療費の広告は獣医業界の諸規則が不備な為、今に至るまで、我々業界利権の暗黙ゾーンとしてアンタッチャブルな事だったと、全ての獣医師間では認識されております。

私はこの暗黙分野を改善しようと、獣医療に関しての費用は全て広告するべきだと、30年間訴えて参りましたが、決して同業の同意を得ることはできませんでした。その理由はペットの医療広告＝価格競争による医療の質の低下を招くという意見が多くあり、業界利権守秘を打破することが非常に高いハードルとなっているからです。しかし、我々獣医師（動物の場合）は人間の医師と異なり、公的資金や優遇税制等の対象外とされており、普通の自営業という位置付けでサービス業となります。

さて、私は55歳の獣医師ですがインターネットなどにはあまり興味がなく、携帯電話も使いたくない方なのですが仕事上仕方がないので毎日使っています。電車の中などで携帯電話で話をしているのを聞くと、心底怒りを覚えます。はっきり言って携帯電話をさわっている人たちを見ているだけで気分が悪くなるというのが本音です。私は古い人間ではないと思いたいのですが、型遅れの間人でしょう。私のようにホームページなど見れない人もたくさんいるのではないのでしょうか？法律で定められている狂犬病予防接種の価格を市町村が出す案内には載っていても、これは獣医師会との談合で決められた料金を広告しているわけですから飼主様にとって不利益もあるわけです。

私は今回この広告を通じて今後共より多くのペットオーナー様が、本間獣医科医院だけではなく全ての動物病院へ、提供される医療価格に不安や心配がなく気軽に来院し医療を受けられるよう、心より願っております。

そして、我々自身の健康についても自己責任の念をもって健康管理に努め、その先には人医療に従事する業界の方々へもローコストの医療サービスの提供とその必要性をご認識いただき、我々獣医療のサービス価格の動向を参考に、限りのある国民の資金と公的保険費がより大切に運用されることを職業柄痛切に感じる次第です。

現在、日本国内の動物病院数は全国に約1万病院あり、総診療売上高は年間3,500億円となります。つまり、1病院当り年間売上3,500万円程です。これは人間の医療費の100分の1以下となります。また、日本全国の犬猫飼育頭数は約2,100万頭です。国内人口の6分の1となります。この数字は人の医療が、いかに膨大な経費がかかっているかということと、我々動物病院の自助努力を少しでもご理解いただければ光栄です。

ほとんどの獣医師は純粋に動物医療へ取り組み、巨視的には世界の公衆衛生、環境衛生、食品衛生、基礎医学等へも熱心に日々活動をしていると言っても過言ではありません。

今後共、全ての動物病院をより一層ご理解いただけますよう切にお願い申し上げまして、この度の獣医療費広告掲載の意見とさせていただきます。

（筆責）本間獣医科医院 総院長 本間 克巳